

福祉と観光の連携による

市民就労促進事業

鳥羽市の人口予測

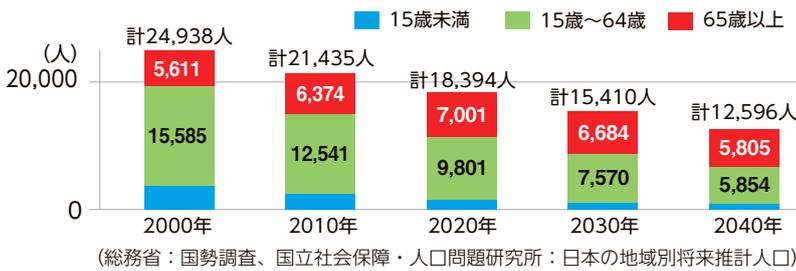
近年、人口減少を危惧する声が多く聞かれるようになりました。国立社会保障・人口問題研究所が公表している今後の鳥羽市における人口は、2040年には1万2596人で、現在よりも約6000人の減少が予測されています。

また、65歳以上のシニア層の人口は、現在からそれほど変動がないものの、15歳から64歳までの生産年齢人口（働き世代）は大きく減少することが予測されています。

これは鳥羽市に限ったことではなく、全国の地方では同じような現象が起きています。この人口減少に対応するため、全国の自治体で取り組みが始まっています。

鳥羽市の人口推移予測

高齢者はそのままで、働き世代が減る



人口減少がもたらす弊害

人口減少が進むとわたしたちの暮らしにどのような困ったことが起こるのでしょいか。

特に15歳から64歳までの働き世代が減少することで、さまざまな産業で人手不足が生じます。

生活に必要なものを売る小売業や、娯楽のためのサービス産業が縮小し、生活に不便を感じたり、漁業や農業の担い手が減少して地域産業が衰退したりすることが考えられます。

また、電車やバスを利用するかが減少して公共交通が縮小されるかもしれません。自家用車利用が減少するであろうと考えられるシニア層にとっては、公共交通の縮小は大きな問題となります。

鳥羽市社会福祉協議会
観光課
健康福祉課

☎ 25 1188
☎ 25 1155
☎ 25 1181

とばびと活躍プロジェクトとは

さらに、自治会や消防団活動、地域の祭りなどの維持が困難になることによる地域コミュニティ機能の低下が懸念されます。

単に「人が減る」というだけではなく、まちの機能が低下していくことが大きな問題となります。

市では、人口減少を直接食い止める移住推進などの施策はもちろんのこと、人口が減り、働き世代が減少しても、みんなが幸せに暮らせる魅力あるまちづくりを行うため、「とばびと活躍プロジェクト」の取り組みを進めます。

とばびと活躍プロジェクトとは、さまざまな施策を通じて、

て、鳥羽市で暮らす人々（とばびと）が、地域でイキイキと活躍することができる「地域共生社会」を目指すプロジェクトです。

このプロジェクトを実現していく施策の一つとして、福祉と観光が連携した市民就労促進事業を実施します。



福祉と観光の連携による 市民就労促進事業の実施に向けて

福祉と観光の連携による市民就労促進事業では、働き手を求める旅館やホテルなどの宿泊事業者と、働きたい市民のかたとをつなげる就労促進を行います。

鳥羽で暮らす人々が、就労する・仕事をすることで暮らしが豊かになり、人から頼りにされ、社会とのつながりを持ちながら、生涯、イキイキと活躍できるまちを目指します。

鳥羽市の現状と課題

鳥羽市は年間約420万人の観光入込数を誇り、そのうち約170万人が宿泊をしている宿泊観光地であり、旅館やホテルをはじめとした宿泊産業は、市の経済活動に大きく寄与しています。

しかし、近年では、旅館やホテルでの働き手がいらないという声が多く聞かれ、人手不足の解消や雇用の確保が急務となっています。

その反面、市民のかたからは「働く場所がない」という

声が聞かれるなど、働き手を求める旅館やホテルと、働きたい市民のかたとをつなぐ仕組みづくり（マッチング）が必要となっています。

どのような取り組みを進めるのか

市では、雇用対策や就労支援のアドバイザーとともに、旅館やホテルをはじめとした宿泊事業者への聞き取りによる業務内容の把握や業務内容の分解を提案し、働きたい・働ける市民のかたの希望や適正、得意分野を活かせるよう、宿泊事業者と市民のかたとのマッチングを行う仕組みづくりに取り組めます。

なお、生活困窮のかたの就労支援については、鳥羽市社会福祉協議会において相談窓口を設けています。
鳥羽市社会福祉協議会（保健福祉センターひだまり1階）



旅館・ホテル

- ①仕事内容の再確認
- ②業務内容の分解
- ③新しい働き方の構築・提案
- ④仕事内容の情報発信



働きたい・働ける市民のかた

- ①適正や条件の把握
 - 働く目的
 - 働きたい時間
 - 働きたい仕事内容
 - 得意なこと、好きなこと
 - 給与・賃金
- ②働きたい市民のかたを発掘
 - 自治会などコミュニティへの呼びかけ
 - 就労支援窓口の充実
 - 職場見学の実施
 - 市民のかたへの情報発信



子育て支援



健康促進

地域共生社会



地域への愛着



コミュニティ強化